

令和5年度第2回学校運営協議会議事録

1 期 日 令和5年9月22日（金） 10:00～11:30

2 場 所 西伊敷小学校 校長室等

3 出席者 加藤 俊文, 福德 清和, 梶 和嗣, 米倉 佐和, 大石 博子,
村山 雅子, 廣司 正良, 有村 かおり

4 会順及び協議題

(1) 開会のことば

(2) 学校運営協議会長あいさつ

(3) 学校長あいさつ

(4) 学校の現状に関する報告

ア 本校の学力の現状について

イ 本校の体力の現状について

ウ 本校の健康等の状況について

エ 本校の生徒指導の状況について

(5) 授業・施設参観

(6) 意見交換

(7) その他

(創立50周年記念式典・祝賀会, 「県小中一貫教育及びコミュニティフォーラムin鹿児島市」の案内 等)

(8) 閉会のことば

5 協議の内容や意見等

(1) 「授業・施設参観について」

○ 教室内外の設営がよかった。作品に担任からの朱書きのコメントがあり, 児童の今後の意欲や担任との信頼関係の構築につながっていると思われる。

○ 教室内外の整理整頓(児童のかばん棚, 机上, 教室の床・廊下等)がなされており, 学習にふさわしい環境となっている。

○ 幼稚園, 保育園時からの成長が見られた。児童の作品(絵等)が, どれもすばらしい。

○ 学級によって特徴があり, 先生方の努力が分かった。

○ 1年生から6年生まで, 授業の中でタブレット端末をよく使っており, 新しい授業の姿を見ることができた。実際に話す, 聞く, 書く等の直接体験とタブレット端末のよさを上手に組み合わせて, 今後も授業に臨んでほしい。

○ ある学級で, ちょうど発表していた児童が, 「間違えました!」と大きな声で恥ずかしがらずに発言する様子を見た。周囲の児童がそのことを嘲笑せず, 温かく見守っている姿に, その学級の「認める」「受容する」素晴らしさを感じた。

○ ある学級で, 一人の児童が算数の問題の解き方を発表した後, 担任が繰り返し別の児童や全体に説明させようとしていた。分かったつもりや理解が乏しい児童に対して, この切り返しが必要であると感じた。

- 外国語の授業では、「書く」活動も取り入れられ、力が伸びていると感じる。
 - アクティブラーニングの授業は、従来の授業よりも準備や進め方等が大変であると思われる。先生方は大変であるが、授業改善に臨まれていることを知ることができた。また、そのような授業を実現するためには、基礎（土台）がしっかりしていることが大切だと感じる。
 - 特別支援学級では、少人数で、きめ細かな指導がされており、よかった。
- (2) 「本校の学力の現状に対する質問・意見」
- 日課表の「にしっ子タイム」について教えてほしい。
 - 毎週水・金の6校時（1・2年生は5校時）終了後の20分間を設定している。水曜日は国語（漢字、文法、作文）、金曜日は算数（四則計算）とし、習熟を図っている。また、月1回、「学力向上タイム」と称した45分間を全学年設定し、当該学年で定着のよくない単元の復習や思考力・判断力・表現力を育む良問に取り組みせ、学力の定着・向上を図っている。
 - 各種調査結果を見ると、今年度は昨年度までと比較し、学力が向上しているが、どうしてだろうか。（特に全国学力・学習状況調査）
 - 調査の学年児童が毎年変わるため、その学年集団の学力の実態によって、平均正答率が上下する点はある。しかし、全職員で学力の定着・向上という目標を共有し、話を聞くことや立腰（姿勢）を粘り強く身に付けさせたり、授業改善に向けた研修を行ったり、各種調査を学び直しの機会と捉え計画的に復習させたりしたことが成果として表れているとも考えられる。また、真面目で素直な児童が多く、保護者の理解・協力のみならず、保育園・幼稚園の取組や地域の教育力等もあると考えられる。
 - 家庭学習における課題の採点等を保護者が行うことについて負担感があるという声を聞いた。
 - 特に低学年の担任は、家庭学習の習慣化や見届けのため、保護者の方をお願いすることが多い。その他の学年についても、そのようなことを依頼する場合には、趣意説明を十分に行い、負担も考慮しながら、保護者の方に協力をお願いしたい。
- (3) 「本校の生徒指導の状況に対する意見」
- いじめに関しては、引き続きアンケート等から認知を積極的に行い、早期解決に向かうようにしてほしい。
 - いじめを見落とすことがないように実態把握に努め、早期発見・早期解決を行っていく。
 - GIGAスクール事業によるタブレット端末等の導入により、休みがちな児童に対する手立ても広がっている。
 - タブレット端末を通じた授業やコミュニケーション等、手立てを充実させていきたい。
- (4) その他
- 小中一貫の大切さを感じる。9年間のスパンで児童生徒を捉え、本学校運営協会も合同で開催する必要性も感じる。
 - 毎回は難しいかもしれないが、年1回程度、情報共有や共通実践等を進められたら大変有意義であり、検討してみたい。